

還幸

鳳輦寄南階時、大相國將軍家、從東之階有御下、中門之内北之方御立、御供奉如鳳輦過時御磬折、又

見執次  
詰所記

〔行幸之次第記録〕辻固置目之事

覺

一行幸還幸兩日計、辻固衆早天に罷出可申事、

一二條御城之前、辻固衆右之兩日之役を勤、歸候時分見合、次第々々に何も罷歸事、

一辻固烏帽子素襖上下著、大刀持敷皮を敷、御成之時は敷皮より下り、謹而可罷居之事、

一小路を固め候處、幕弓鐵炮鍵之數、何も申談、多少無之様可申渡之事、

一家之内に有之見物人、女わらんべは前に置、おとなは後に居可申事、

一二階には女わらんべ迄も、見物可爲無用事、

一堀川のはたに、木の垣を可仕候事、

但河中に町人小屋かけ申候は、見合可申渡事、

一寛永三丙寅年九月六日、行幸、

一七日、舞御覽、并從將軍様○德川家光御進物上ル、公家衆へも御大刀金銀御服被下候、

一八日、從大御所様○德川秀忠御進物上ル、并公家衆へも色々被下候、今日御殿主へ被爲成、御馬御見

物、夜ニ入歌之會有、

一九日、御能御見物、

一十日、還幸、

〔舜舊記〕寛永三年九月五日、行幸爲見物、晚ヨリ壽命院へ罷出、至初夜比ニ棧敷へ罷出也、夜七ツ時